

山根義夫、太田校長岩谷寛二、資母校訓導下田政次、郵便局長堀三右衛門、陸軍工兵中尉橋本吉之亮、陸軍歩兵少尉小西治之助、御大典地方饗宴に神戸第一中學校に召さる。本村御大典記念事業として左の諸件に着手す。

一、村誌を編纂す。

一、歴代村長の真像を撮影す。

一、富有柿を戸毎に配布す。

一、學校林を設置す。

一、村并に學校各種團體の徽章を制定す。

一、消防を統一す。

一、各村社へ記念樹銀杏を栽植す。

第三篇 神社

概說

神社の社は、ヤシロと云ひ、天神地祇を鎮祭する所の殿舎にして屋代の義なり。神社を宮と云ふは尊稱しての義なり。神社のことの史上に見えたるは日本書紀、古事記に大國主命が自幸魂奇魂を祀り給ひしを最古とし、之に次ぐを出雲の杵築大社なりとす。古代に於ける神社の建築方は古事記に於底津石根宮柱大斗斯理於高天原氷木多迦斯理とあり。即礎石を用ひずして柱の下部を土中に埋め、屋上に千木を高く聳てしことを知らる。又產土神は之をウブスナノカミと云ひ、略してウブスナとも云ふ。其ウブスナは各人の本居即産出せる土地の稱にして其產土を守護せる神を產土神といふ。和爾雅に生神日本紀稱之本居倭俗稱在我產土之神日生土神產其神地之義也。又稱產靈今俗以生土神爲氏神者非也と稱し、其地に生るゝものを產子と云ひ又氏子とも云ふ。

氏子は元氏神即其祖神に對して各氏の子孫を謂へるものにして、產子は各鎮座神

社の地域の兒を以て稱するものなり。以上を混淆して氏神產土神を同一のものとせり。要は氏神はもと村を建設したる氏族の祖神か若しくは特に信奉せる神を祀りて鎮守とし村の守護神として之を崇拜せるものにて、村人の一致結合は其共同崇拜に依り頗る強固にせられしなり。

村　　社

比　遲　神　社

口藤村宇山姥にあり。式内社にして現今村社なり。祭神多遲摩比泥命天津兒屋根神。

古事記

天之日矛聞其妻遁、仍渡來、將到難波之間、其渡之神塞以不入、故更遷泊多遲摩國、即留其國而娶多遲摩之侯尾之女、名前津見生子多遲摩母呂須玖、此之子多遲摩斐泥、然るに神社啓蒙神祇志料の説は然らず。

神社啓蒙

藤ヶ森鎮坐丹後丹波郡比治麻那爲神社と同神社なり、後の山を比治山又は「いさな

ご山又葦古山或は眞名井と云ふ一山四名あり伊勢外宮の本つ宮なり藤ヶ森は比治が森なり。

神祇志料亦同

蓋豊宇賀乃賣神を祀る初豊宇迦乃賣神常に攝津稻荷山に居て厨膳を爲り給ひしが後故ありて丹波國比遲の麻奈韋に遷り給ふと

相殿神天兒屋根の命は中臣の祖にて藤原氏の祖神なり。

本社別に羽倉信義の書を藏す其文左之如し。

正一位 稲圃荷 五社大明神安鎮の事

右本宮之新祕而不他宗之所知故不許容易修封虫喰也雖然但馬國出石郡平野口藤ヶ森村中執事德右衛門
要助常崇敬當社殊于他且今般請安鎮本宮之神靈司謹而大祀式修封之奉勸遷嚴重神寶神鏡於其請齊場年々永奉無怠祭祀不明尊信者可爲其所其家繁榮安全長久幸福之鎮護者也

明治二年己巳年八月豐日正官御殿預從五位上行攝津于之不明信義印
右文書之箱書に羽倉攝津守とあり。

右文は明治初年火災に罹り神體焼失せし故徳右衛門要助なるもの伏見稻荷祠官羽倉攝津守に依頼し御靈を授けられしなり前後綜合し祭神に疑念を生ず要は豊宇賀命は稻荷社之本體にして本社俗に稻荷と稱せしに依るならん

境内社稻荷神社祭神保食神

一札維持亭和元曆辛酉八月令辰天下泰平國家安全

一札丹後板並別八幡社司毛呂下野不明庄屋嘉左衛門外二名丹後宮津萬町鍛冶次右衛門

奉再營正一位稻荷額持國天王增長天王廣目天王多門天王丹後岩屋住大工

一石段 天保五年仲秋一日

一鈴 明治二年正月吉日岩破平右衛門

創立年不詳明治元年本殿家根替之際火を失し焼失せり。同年八月再建、明治六年村社格加列、明治四十二年五月春日社合祀、大正四年十月二十五日、神饌幣帛料供進社となる。

境内坪數 三百二坪

祭典 祭日十月一日。

須流神社

赤花村字主樓谷にあり、式内社にして現今村社なり、祭神伊弉諾尊伊弉冊尊。地神の初代游母陀琉神訶志古泥神に次で生る伊弉諾伊弉冊高御產靈神の命を奉りて天浮橋に立ち天瓊矛を執て共に滄海を探りて於能碁呂島を造る依て二神殿を建てゝ居し交婚を爲し日月星辰を生み尋で淡島淡道伊豫筑紫伊岐津島隱岐佐渡大倭豐津島等の諸地を發見し我國の基を開く。『書紀、古事記參取』

神名帳考證曰

祭神須沼比神古事記神活須沼毘賣神の女伊怒比賣大年神を合祀す

古事記

大年神娶活須毘賣神之女伊怒比賣生子大國御魂神

神祇全書但馬式社考

須沼比神大年神娶神活須毘賣神之女伊怒比賣生子大國御魂神按流興沼横普通祭神

大年神歟。

一神體衣冠束帶坐木像二軀

社後の山に朱樓石とて二個の密接せる突石あり、奥院なりとて祭祀す、一を男石と

稱し伊弉諾に形とり、高四丈圍り三丈一を女石と稱して伊弉冊に形とり、高三丈三尺周二丈四尺なり。

一高麗狗一對高一尺七寸木造也

創立不詳、正徳二年九月再建、寶曆五年八月神體彩色、文化十四年九月再建、明治六年十月村社格加列、大正四年十月二十七日神饌幣帛料供進社指定。

神體臺座銘記

寶曆五乙亥天八月吉日主樓大明神、願主橋本八兵衛、小西權吉、渡邊猶右衛門、御彩色岡の堂にて仕候、京都大佛師木村弘印公。

一額主樓大神宮 裏に文政八年八月八日庭田入道從一位前按察使大納言祐眞謹書
一札奉建立主樓大明神社村中息災五穀成就願攸正徳二壬辰年九月吉祥日大工西村
李兵衛

一札奉宮社立大工棟梁西村李右衛門正徳二歳壬辰十月吉日奉納首露大明神社

一札當宮再造遷宮棟札赤花邑氏子中奉再建主樓大明神宮臺宇大工棟梁岡田小兵衛
一札文化十四歳九月二十六日本願主口赤花橋本八兵衛中西吉左衛門中赤花渡邊猶
右衛門奥赤花小西六郎右衛門

一石燈籠一基萬延元曆庚申臯月建八兵衛橋本政義一基安永下季己午長月孫太郎泰
義一對文化卯

一石段寛政十二申九月

境内社武神社祭神須佐之男命稻荷神社祭神保食神

境内坪數五百七十坪外に五畝十七步明治三十八年編入

氏子百四十五戸

祭日十月十一日

神社關係地主樓谷、神ノ村、神かいち神谷、神田、神ノ浦、宮の谷、火ば

關係文書（渡邊猶右衛門所有）

十一月八日の御狀二十七日に相届添く拜見仕候處其御地貴公様彌御健勝に被成
御座珍重に奉存候扱又主樓大明神様正一位の官に奉成建候由御願被成候而願望
相叶候處小間小間御申被下早速右之御連名惣氏子寄合而披露仕候處此上ながら
御願被成候而正一位主樓大明神と額奉掛候得ば此上も無御座惣氏子銘々大慶に
奉存候併境内小間小間事記別紙に遣申候段御披見之上可然様奉願上候先は荒々
御返事申上候恐惶謹言十二月五日渡邊猶右衛門橋本八兵衛小西六郎右衛門橋本

定七 橋本儀三郎様

一筆啓上致候先以彌貴公様御健勝に被成御暮珍重奉存候次に此方私家内始定七殿御方皆々無事に有罷候間乍慮外御心安思召被下度候扱又主樓大明神官位之事前委細御嘶申談事候處不捨置被掛御心に此度御願被成大方成就仕候處小間小間御事記御申越被下早速此上願之儀相叶候はゞ額も御調被成可被下候額代二面可仕候間字面間違無之様願上候正一位主樓大明神願主橋本儀三郎渡邊猶右衛門一宮守神主の儀子孫無之罷在候處寶曆五年亥ノ八月に御再興仕候而戸前改錠前仕候而四人願主名書(數字不明)に仕候處拙者名前上り氏子惣代より手形取錠前祭禮等一切差圖世話仕候

一神體いざなぎいざなみ之みことに御座候其節佛師木村法印被申候は古き神體凡六百年以前と被申候是も貴公迄何角申入候宜敷願成仕候様に奉願上候十二月五日渡邊猶右衛門橋本儀三郎様

本社は出石藩主之崇敬厚く、年々米一斗宛祭典費として下給せられ、且代々一度は必ず参詣せらる。

安牟加神社

虫生村字宮の宮に在り、式内社にして現今村社なり、祭神天穗日命。

素盞鳴尊乞取天照大神鬢髮及腕所纏八坂瓊之五百箇御統濯於天真名井，酷然咀噉而吹棄氣噴之狹霧所生神號曰正哉吾勝克速日天忍穗耳尊次天穗日命是出雲臣土師連等祖也。日本書紀

皇祖高皇產靈尊欲立皇孫天津彦々火瓊々杵尊以爲葦原中國之主召集八十諸神而問之曰天穗日命是神之傑也卽以天穗日命往平之然此神倭媚於大己貴神比及三年尙不報聞云々。『日本書紀、古事記參攷』

出雲宿稱出雲入間宿稱神門臣土師宿稱菅原朝臣秋篠朝臣大枝朝臣山直石津連民直贊土師連以上天穗日命より出づ。『姓氏錄』

天穗日命天照大神忍穗耳命を降し給はんとする時國土未騷亂す仍て此命を遣はし平定せんとす、穗日命大國主命に媚び復命せざる事三年遂に若日子を代らしむ、後大國主歸順し天日隅宮にかくれ、此命をして祈の事を司らしむ。

神體封箱の御魂なり

創立年不詳、享保十六年九月二十三日再建、明治六年十月村社加列、明治四十二年上の宮神明社合祀。

境内攝社稻荷神社、祭神保食神三柱神社、保食神稚皇產靈神、蒼稻魂神、上宮事解男神、

神明社大日靈貴神(天照大神)木像古神體あり。

一札 再建阿牟加神社享保十六年辛亥九月二十三日大工出石八木町大工七右衛門
一鰐口 正保年中記銘のものありしも、神佛區別之時取除き後紛失せりと

一燈籠 寛政九年六月

境内坪數 百四十八坪外に一反一畝八步、明治三十八年五月編入。

氏子數 八十五戸。

祭日 十月十四日祭禮として傘鉾あり。

本社古來より角力之行事は神慮に叶はずとて行はず、蓋、祭神天穗日命は土師の祖
野見宿禰と同系なればなり。

奄我神社丹波天田郡奄我村にあり、聖大明神と云ふ、蓋天穗日命を祀る、土人但馬阿
牟加神社傳説なりとて、寶龜四年壬辰九月丹波天田郡奄我神社、盜供祭物を喰ひ社中
に斃れたるを以て本社を距る事凡十丈許の地に更に社を建て之れを移す(『續日本紀』寶
龜四年九月記)、以て本社と關係を有するならんも由緒不明なり、但傳説のみ今は口碑に存
す。

日出神社

畠山村字宮本に在り、式内社にして現今村社なり祭神但馬日多詞。

新羅王子天日槍泊多遲摩國卽留其國而娶多遲摩之侯尾之女名前津見生子多遲摩母呂須玖（諸杉神社祭神）此之子多遲摩斐泥（比遲神社祭神）此之子多遲摩比那良岐此之子多遲摩毛理（中嶋神社祭神）次多遲摩比多訶多遲摩比多訶娶其姪由良度美生子葛城之高額比賣命（此者息長帶比）『古事記』賣命之御祖

日出神社資母郷畠山に坐す。『式社考』

畠山村字宮本日出大明神。『神社啓蒙』

創立年不詳享保十一年八月十一日再建明治六年十月村社格加列。

神體封箱之金幣なり。

土人傳說百年程前鎧着之御神體なりしも、精神病者溢出し赤花主計酒屋之門前にて玩弄せしを人神なりとて制止せず、爾來紛失し後石地藏を以て神體とせしを、明治三年佐治氏神體改之際、現今の金幣に改めたり。

境內攝社若宮大明神稻荷大明神秋葉大明神

一額 日出神社天眼書

一床下柱銘記 享保十一歲丙午八月吉祥

一札 日指大明神奉建立御拜、享保十一年丙午天八月十一日、守護小出主膳様御代官
彌兵衛御手代大村茂兵衛、宮本氏子中大工平井九左衛門永井文左衛門加藤仁平
裏 日指大明神奉建立御拜子孫繁昌祈禱。

一札 日指大明神寶永元年申之四月十一日守護小出主膳御代官河井彌兵衛伊藤又
左衛門御手代坪内茂兵衛大工宇須井源右衛門

裏 當社及破損氏子中茂すいび仕可致力無之節操仕不明百日計り御座候て皿之
木引手間へまいりやしないに仕色々と精を出し如此之破損いたし候以後如此
可有者也

寶永元年申四月十一日但馬國出石郡太田谷畠山村宮本筆取羽尻平左衛門
一札 奉遷日出神社明治三庚午年九月四日

裏 村中安全畠山村庄屋永井和平年寄今井幸左衛門同苗淺右衛門百姓代永井三
郎左衛門丹後久美谷神社大宮司佐治從五位藤原朝臣正不明敬拜

一札 奉營繕日出神社御神殿一字一天泰平社頭光榮今上天皇寶祥萬年祠掌黒田廣照

裏 御遷宮明治二十一年十月十五日同村總代永井三郎左衛門

一鰐口 奉掛日出大明神正德六年申三月日

但州出石郡太田庄畠山村ノ内宮本觀音講中。(小林大師堂にあり)

一高麗狗 石製一對

一竹帙 長八尺桐箱入、箱蓋銘今上皇帝御卽位清涼殿御掛御簾、取次京都新櫻木町甲斐厨屋六兵衛女房但州出石郡宮本

一鳥居 明治三十二年建立

一燈籠一對 文化六年九月、一對天保二年九月

境内坪數 百八十一坪外に二畝二十五步、明治三十八年五月編入

氏子數 二十九戸

祭日 十三日陰曆九月中旬日なりしが文化十二年九月十三日改む。『今井文書』

恒良親王謫居跡境内に奉遷すとの口碑あり現今御池等の跡を存す其他日和坂日落谷等之字あり神社に關係せる歟。(太田氏並に古蹟參照)

如布神社

中山村宇田口良に在り、村社にして祭神埴安彦命埴安姫命。

伊邪那美神生火之迦具土神因生此子美蕃登見炎而病臥在多具理邇生神名金山毘

古神次金山毘賣神次波邇夜須毘賣神。『古事記』

伊弉冊尊爲軻遇突智所焦而終矣其且終之間臥生土神埴山姫。『日本書紀』
埴安彦埴安姫は土を司る神なり。

延喜式内社にして近隣に在る祭神並に社名を同うせる神社左の如し。

丹後加佐郡高野村大字女布ノフ目原神社

同 熊野郡下佐濃村大字女布賣布神社
但馬城崎郡日高村字國保(舊高田郷)賣布神社

同 郡口佐津村大字浦上丹生神社

伊勢飯南郡丹生神社鑛山守護神

神體埴安姫命立像

社殿創立年不詳、大永二年卯月寛政九年三月、文化十二年九月、天保十四年九月再建、
明治六年十月村社格加例、明治十六年十月本殿移轉。

一札(寫)

奉新再興當社之事

右當社建立之事拔群雖久及大破更無取立仁體雖然爰外垣右京之進源恒光依神
難計建立之處明傍現在安穩後生善處也故同作事奉行足立右衛門吉次也

大永二年壬午卯月八一日敬白（現在札なく寫に依る）

一札 奉遷宮執行寛政九巳年三月三日當國出石巫女朝日和泉

一札 如布宮大明神前殿再建文化十年乙亥歲九月吉祥日

一札 拜殿普請天保十四年卯九月

境内社豊宇賀命 享保三戌年九月八日と供物石に銘あり、尙弘化四年再建の札あり。

一鳥居 天保十二年丑三月建立

一石燈籠一對 寛政五年八月

氏子數 八十八戸

祭日 十月八日。

神社關係地名

字田庫たぐら 神社の神田より收納せし穀を納むる處。

字神田かんだ 神社の用途に充つる田地又はミトシロと云ふ、租田にて賣買を禁す。神社自ら耕作するもあり、其田租は貯藏して神稅と稱し、祭祀修繕之用途及

社司社人之俸祿に充つ、仲哀帝九年四月神田之制を定め佃らしめたるを

始めとす。

宇神奴（俚稱かんじょう）神の奴又は神賤とも云ふ神社に屬する賤民なり、良民と婚することを得ず、之を司る長官神奴連と稱す、即神奴の居住せし處なり。

此神社俗にコケツ（嘉吉？）の洪水に坂野より、流れて入に止まる故に名づくと口碑あれども、荒唐無稽の傳説なり。

如布本宮

坂野村字石田に在り、現今無格社、祭神中山如布神社と同じく如布神社の本宮なり。

神體 塗安姫木彫立像中山如布神社神體より古し。

創立年 不詳明治三十二年四月再建。

境内坪數

祭日中山如布神社と同日にして、先づ本宮の祭祀を執行後中山如布神社之祭典を執行す、由來坂野村は元中山村と錯雜せり。古昔分村の時中山移住民が、元產土神を遷して中山に祀りしものならん。（本編概說參照）

記紀に愛宕神社祭神軻遇突智命、如布神社祭神塗山姫を娶りて稚產靈を生む、此神頭に蠶と桑を生じ胸の中に五穀を生ず、之を美都波と云ふとあり、一村に於て社殿を

別にし夫婦神を祀れる事由緒あるべし。

赤野神社

中山字宮ノ谷口に在り、村社にして祭神は天穗日命。（祭神の記事虫生安牟加神社参照）祭祀の由來。虫生村元中山村なりしを寛永十九年分村せしにより、分靈祭祀したるならん。

神體 衣冠束帶の坐木像

社殿創立年 寛永十九年、降りて寛政六年八月再建、明治六年十月村社格加列、明治十五年安牟加神社を赤野神社と改稱。

赤野宮大明神棟札（寫）（瀧谷喜兵衛藏）

當社神廟以星霜久遠故村民一同近年庶幾再造之矣今茲預就山野令證其來由所冀五穀豐登萬民和樂災難不興奉祈願神明之擁護者也

寛政第六歲舍申寅初夏如意珠日

前大德一道叟宗等敬誌焉 □ □

一高麗狗 石彫一對、安牟加神社より分靈の時奉祀すといふ。古色蒼然たり。

一札 延喜式内奉鎮祭阿牟加神社明治五年壬申三月二十八日懸毛畏幾當社は延喜

社安牟加神社坐之社虫生村に鎮座有之寛永十九壬午年中山村へ分社し奉崇今般王政復古にならせられ基其蒙御改徳猶改て其記乎奉捧氏子一統休日參詣致候事

神官丹後熊野郡市場村七社神社日下部從五位藤原秀宗花押

鳥居 天保十一年二月

燈籠 一基寛政元年九月 一基寛政四年九月

境内坪數 三百七十九坪 内官有地百七十六坪 民有地二百三坪

氏子數 六十二戸

祭日 十月八日

攝社 稲荷神社、保食神社、大國主神、蛭子神。

八幡神社

中藤字八幡山。村社にして祭神譽田別神

譽田別第十五代應仁天皇御名譽田別尊又は大鞠別命胎中天皇とも稱す。仲哀天皇の第四皇子にして母は神功皇后なり。仲哀天皇の九年十二月筑紫に生れ給ふ。時に仲哀天皇既に崩じ天皇尙幼稚なるを以て神功皇后攝政し皇太子とす。皇后崩

後年七十一にして始めて即位す。五年諸國に海人部、山部を定め山海の政を整ふ。當時三韓征服之後なりしかば韓土之人來り投するもの多く、技藝學術を輸入せること尠なからず。即十四年には百濟より縫衣女を、十五年には良馬を貢し翌年王仁來朝、論語千字文等を獻じ二十年には漢の靈帝の孫たる阿知使主十七縣の民を率ゐて來朝せる等我邦文明史上に於て注意すべき史實甚だ多し。四十一年二月崩す。壽百十一（古事記百三十となす）河内國惠我藻伏岡陵に葬むる。

元明天皇和銅五年豐前國宇佐に祀り、八幡大神宮と號し、清和天皇は山城國男山石清水社を創め、共に歷朝の崇拜頗る厚し。『大日本史』

神體 衣冠束帶の坐像

創立 年不詳、寶曆十二年八月再建、文化十二年三月十五日上屋再建、明治三十三年九月十五日再築、明治六年十月村社格加列。

一札 奉上棟八幡宮上屋再建立文化十二亥歲三月十五日村内安全祈所。

境内社 稲荷大明神元文五歲十月八日玉宗禪寺現住良因修造の札あり。

一鰐口銘 奉掛八幡宮、但馬國出石郡太田谷中藤ヶ森村、貞享三年丙寅九月吉日庄屋善太夫女。

一燈籠一對 寛政八年八月吉日

境内坪數 九十三坪外に四畝二十二步明治三十八年五月編入

氏子數 四十五戸

祭日 九月廿八日

本社と丹後大成八幡社と關係ある歟。又本社と云ひ阿蘇社と云ひ、九州に關係あるは一考すべきなり。

奥宮神社

奥藤字丸垣。村社にして祭神氣長足姫神。

神功皇后御諱は氣長足姫神。開化天皇五世の孫、息長宿禰の女御母は、葛城高額媛（天日槍系統）成務天皇三十年誕生、仲哀天皇二年立てゝ皇后となす。熊襲背反の爲天皇御親征、駕に従ひ筑紫に赴く時に皇后熊襲を後にし先づ新羅を討たん事を主唱し給へども天皇之を用ひ給はず、幾干もなく天皇陣中に崩す。茲に於て武内宿禰と議し天皇の喪を祕し、先づ鴨別をして熊襲に當らしめ、自ら男装して海を渡り急に新羅を征す、新羅王大いに怖れ戦はずして降る、乃ち大矢田をして其地を守らしめ、凱旋の途次應神天皇を筑紫に生む。尋で群臣を率ゐて穴門の豊浦の宮に移り、更に海路より

京に向ふ、會仲哀天皇の庶王子鹿坂、忍熊の二王子兵を擧げて道に邀撃す、皇后即ち武内宿禰等を率ゐ二王子と戰ひ之を殺し亂平ぐ、爾來應仁天皇を奉じ政を攝する事七年御年百にして崩す。大和國生駒郡平城村大字山陵狹城盾列池上陵に葬る。

『大日本史』

神體 木立像氣長足姫神

社殿創立年不詳 神殿扉に左記之文あり

檢地罷越寛文十三年中旬二十一日、奉行人村野四郎左衛門板野新五左衛門下村市之丞遠山吉右衛門足立作右衛門。

以上の扉記に依り既に寛文十三年に本殿現存せしを證すべし。後文政三年八月上屋再建、明治六年十月村社格加列。(昔檢地役人其村の檢地終れば、氏神に參詣扉に記載せし由口碑に存せしが其口碑の確實なる事を證すべし。)

一額 千家尊福書

一神鏡 安政二年八月之銘あり。

一札 多寶院護麻祈禱札寛政十一年、同十二年、文化五年の三枚あり。

一鳥居 天保十五年再興。

一燈籠 一對文化元年

攝社 稲荷神社

境内 百十四坪

氏子 四十三戸

祭日 九月十九日

祭札 太刀振

本社は祭神氣長足姫にして、中藤村八幡社之祭神譽田別之御母なり、昔本村と中藤村一村にて藤ヶ森と稱し、寛文十三年七月分村せり、蓋し中藤八幡神社之奥宮なり。

山口神社

坂津村宮ノ本 村社、祭神戸山祇神

古事記曰伊邪那美命火之加具土神を生む、美蕃登炙れて病み臥し後神避りましぬ、是に於て伊邪那岐命佩かせる處の十拳の剣を抜いて、其子迦具土神之頸を斬り給ふ、其右の足に成る所の神の名戸山津見神。

『日本書紀』曰伊弉册尊火の神軻遇突智を生み焦れて神去りましぬ伊弉諾尊恨みて曰唯一兒を以て我愛する妹に替ふべけんやと帶ぶる所の十握之劍を以て軻遇突

智を斬り五段となす各化して五つの山祇となる首は大山祇身は中山祇手は麓山祇腰は正勝山祇足は籠山祇によりて火を幸ふ神なり。

神體 衣冠束帶立像 台座之銘記 文政十一戌子臘月吉祥皇都產故有而當國養父村に住す山口庄太郎作舊城名諸工七條西外に隨神二體あり。

創立年不詳 文政十一年十二月神體彫刻同月正遷宮明治十八年五月廿四日再建、明治六年十月村社格加列、明治四十一年九月無格社愛宕神社合祀。

一高麗狗一對 青石製

一札 大山住尊體御尊官被遊文政十一年極月二十一日石城住朝日和泉朝日宇門是願主。

一札 奉鎮祭山之口大明神正遷宮謹修文政十一年戊子十二月二十一日出石博勞町朝日和泉。

一札 奉再建山口神社御神殿一字

天下泰平國土安穩風雨順次百穀豐登

奉務祠掌黒田廣照氏子總代明治十八年五月二十四日

瓦製の焼物表裏に各十五體の佛像を附し、經文一字宛を表せしものを長禪菴に藏

す、元本社にありしを、明治三年八月神社改之時移せしといふ。

一鳥居　寶曆二壬戌天九月吉日

一舞堂　元治元年甲子十一月普請

境内社　稻荷神社(保食神)山神社(大山祇)若宮神社(天忍穗耳神)。

坪數　四百九坪

氏子數　三十八戸

祭日　十月十日

岡野神社

畠山字日和坂村社祭神少彥名神

『古事記』曰大國主神坐出雲之御大之御前村自浪穗乘天之羅摩船而内剥蛾皮剥爲衣服有歸來神爾雖問其名不答且雖問所從之諸神皆白不知爾多邇具久白言此者久延毘古必知之卽召久延毘古問時答自此者神產巢日神之御子少名毘古那神故爾自上於神產巢日御祖命者答告此者實我子也於子之中自我手俟久岐斯子也故與汝葦原色許男命爲兄弟而作堅其國故自爾大穴牟遲與少彥名二柱神神並作堅此國然後其少名毘古那神者渡于常世國也。

『日本書紀』曰、大己貴命與少彥名命戮力一心經營天下復爲顯見蒼生及畜產、則定其療病之方又爲攘鳥獸昆虫之灾異則定其禁厭之法、是以百姓至今咸蒙恩賴、嘗大己貴命謂少彥名命曰吾等所造之國豈謂善成之乎、少彥名命對曰或有所成或有不成是淡也蓋有幽深之致焉其後少彥名命行至熊野御崎、遂適常世鄉矣（以下略）

神體 衣冠束帶の立像

鏡臺銘 奉納御鏡臺、文化元年甲子十二月三十日。

施主 今井甚兵衛妻

創立年不詳 正徳三年、享保九年、文政十一年再建、明治六年十月村社格加列。

一札 奉建立岡野宮大明神氏子般昌祈處

享保九年辰之三月二日畠山村六郎兵衛

一札 奉再建岡野大明神社

于時文政十一戊子孟秋天下泰平郷中安全但馬出石郡上郷久畠庄栗尾村大工棟
梁三宅義右衛門、同國同郡下郷太田庄畠山邑永井六左衛門、小出規太郎殿御代官
河合丹次義政、河合牧太義成、今井三平義連

一札 奉建立岡野宮大明神氏子般昌祈處

正徳三巳正月吉日御代官小出岩之丞様御領分御代官河内彌兵衛様伊藤又兵衛様

様

一札 岡野宮大明神遷宮朝日和泉謹攸

文政十一歳戊子九月吉日

一鰐口銘 岡野宮大明神但馬出石郡太田庄畑山村今井藤右衛門寄進享保七寅年十

一月十一日

境内社 稲荷神社琴平神社

一燈籠一基 安政四年丁巳仲冬一對享保二年子戌八月如意日

境内坪數 百二十六坪

氏子數 四十五戸

祭日 十月十三日陰曆九月二十一日なりしが、文化十二年九月十三日改。『今井文書』

附記 合橋村唐川及三原に岡神社ありて祭神少彦名命なり當社と關係あらん乎

御影神社

畑山村宇宮ノ下村社祭神月讀神

伊弉諾尊曰吾欲生御宿之珍子乃以左手持白銅鏡則有化出之神是謂大日靈尊一書

云月弓尊、月夜見尊、月讀尊其光彩亞日可以配月而治故亦送之于天。『日本書紀』

伊邪那岐命洗左御目時所成神名天照大御神、次洗右御目時所成神名月讀命、伊邪那岐命詔月讀命汝命者所知夜之食國矣事依也。『日本書紀』

月讀尊、伊弉諾尊の子母は、伊弉冉尊二尊が國土經營の後、天下の主たる者を生まんと、まづ日の神を生み次に月の神を生む光彩日に亞ぐ、故に日に配して高天原を治めしむ、記の一書に伊弉諾尊左手に白銅鏡を持ち大日靈尊を生み右手に白銅鏡をもてて月讀尊を生むとあり古事記には伊弉諾尊禊の時左目を洗ひて天照太神を右目を洗ひて月讀尊を生むとあり紀紀共に天照太神に次ぎて尊き神たるを傳へたるを見れば蓋し勢力ありし神なるべし。

創立年不詳 天明元年九月上屋再建、明治六年十月村社格加列。

神體 衣冠束帶の坐像一軀外に立像一體あり。

一札 奉造立御影大明神御寶前所

天明元辛丑年九月如意日〇〇王天中天、加陵頻伽聲、哀愍衆生者、我等會敬禮畠山
村氏本當人九右衛門。(外三十一名)

一札 奉鎮祭水影大明神正遷宮

朝日和泉文化十三年丙子十月吉日、出石博勞町町子謹修

一額 御影宮前妙心海門書文政九丙戌

一額 御影大明神一道叟敬書

安永七戌年正月吉祥日奉納御寶前大工當邑永井七郎兵衛

一鳥居 明治四十年九月建立

一燈籠 一對 寛政十二年庚申歲天保五年午二月

一石段 明治二十一年九月

一鰐口銘 奉納御影宮安政二卯氏子中。（現今觀音堂にあり）

境内社 秋葉明神若宮大明神稻荷大明神猿田彥命。

境内坪數 百五坪

氏子數 四十戸

祭日 十月十三日陰曆九月七日なりしが文化十二年九月十三日改む。『今井文書』

参考 古事記傳云彦坐王は淡海の天之御影神の女息長水依姫を娶りて生みませる
を以て丹波彦多々須道之字斯王と申す崇神天皇の御世に四道將軍の一人にて丹
波道に遣はさる然れば此彌加宜神社は此王の外祖神を祀りしならん（丹後加佐郡彌加

宣神社傳)當社にも關係あるにや附して後考を俟つ姓氏錄山直、天御影命十一世山代根子之後也

下村神社

東里村宇島の辻村社祭神高靈下神

下縣直、高魂尊裔にして天日神命流なり津島縣直家を云ふ顯宗帝三年四月紀に日神著人、謂阿閉臣事代曰、以磐余田、獻我祖高皇產靈、事代便奏、依神乞、獻田十四町云々、日神天照太神を指し奉りしにあらずして天神本紀に天日神命對島主等祖とある天日神命にして下縣直の祖神なり。『姓氏家系辭書』

津島縣直檜原朝、高魂尊五世孫建彌己己命改爲直。『國造本紀』

對島高御魂神社並に大和高御魂神社は神祇志料に依り下縣直に關係あり。
以上の文により高皇產靈尊の裔下縣直の一族なるべし。(祭神により考證)

一說聖武帝の世下村主東里を出石主帳とす東里下村主を祀る。『但馬古事記』

下村主、漢の歸化人光武帝の裔河内安宿郡資母鄉を根據とす養老四年六月紀に河内國若江郡人正八位上河内午人刀子作廣麻呂改賜下村主姓、又天平六年十二月紀に外從五位下鳥安麻呂賜下村主姓など見ゆるは此族也

姓氏錄左京及右京諸蕃に收む前者は下村主後漢光武帝七世孫慎近王之後也と後者は漢光武帝七世孫慎近王後也と註す。

下村主東里此地に住す故に名く、下村主神社下村主命を祀、天日槍十二世孫日生下命、下向地也故に右日生下神社と名く。『但馬世繼記』

城崎村日生下氏あり天日槍後裔なりと。『但馬考』

以上の説によれば資母郷の發生地にして、本郷之紀元は此地に起る如しされど、但馬故事記但馬世繼記共に後世の偽作なれば如何にや、参考として記し後考を要す。

創立年不詳 明治三年再建明治三十八年上屋改築、明治六年十月村社格加列。

神體 二重箱納立像一體

外に三體あり中央は下村神左右は春日諏訪神なりとの口碑あれど佛體なる事確實なり明治三年佐治氏久美濱縣の命に依り神社改の際一旦引上げしを村民縣に願出下渡を受けしと

一札 奉遷宮下村大明神明治三年庚午九月五日東里村庄屋簇部源左衛門日向村庄屋野村茂左衛門

丹後久美濱大宮司佐治從五位藤原朝臣正通

一高麗狗一對木制（鎌倉時代のものか）

境内坪數 二百七十八坪

氏子數 五十五戸

祭日 十月八日

古文書「おとふみ」と稱し古箱入の文書ありしも大正十三年清水伊右衛門火災に失す文意は神田より收めし米を以て祭日に供物をなす元方を記せしものなり上かじや株、大きさこ株、下中株、清水株、向垣株、さこ株等なり株名は今も字及び姓氏に存す。

宮田預二石三斗ありしも明治二十三年三月十八日賣却す。

森本神社

木村宇森本村社祭神句々廻智命、相殿太田判官日本書紀曰伊弉諾伊弉冉二尊海を生み、次に川を生み、次に山を生み、次に木の祖句々廻智を生む。

『古事記』伊邪那岐伊邪那美の命、志那都比古神を生み、次に木の神名は久能智神を生む。

本村名も祭神に基き名けしなり。

太田判官守延、森三郎左衛門尉と稱す後醍醐帝第六之宮恒良親王本村に幽せら

れ預り奉る、元弘三年後醍醐帝隱岐を出でられ船上山に幸し給ひ諸國に詔を下し北條氏を討せんとす、帝源忠顯に勅して山陰山陽の兵を召し赤松則村を援けしむ、太田判官皇子恒良親王を奉じて近國の勢を催し錦の御旗を立て京師を攻め、二條合戦に敗れて死す、詳しきは年代、人物、城跡參照

創立年不詳 元祿四年神體彫刻、嘉永元年九月四日上屋再建、明治六年十月村社格加列、明治四十五年五月無格社産靈神社杵築神社合祀す。

神體 句々廻智命立像一軀

太田判官木像一軀 衣冠束帶坐像帶刀し中啓を持つ

臺坐銘記 七條大佛師運慶之末孫洛陽四條堀川之住大佛師福田康政作之元祿辛未

四歳六月四日

一札 森本大明神本堂再建棟上嘉永元戌九月吉日大工棟梁美含須谷村河原嘉平
生野銀山勝田次郎様御支配所施主產子中願主木村若連中木村庄屋吉右衛門市場庄屋傳左衛門

境内社 杵築神社(大己貴命)琴平神社(事代主命)産靈神社(造化三神)

產靈神社合祀迄妙見宮と稱し宇西ヶ奥山上にあり、札奉掛御寶前一享保九年辰

四月二十三日の夜大雨にて所々大松一の枝に御燈明上りしを人々之を拜み役人衆方へ是をつけそうこう打寄キセイをかけし所に彼方より御告げを蒙り妙見大ぼさつとあらはれ則妙見堂を建て夫れより諸人參詣致候さい錢を集め申候其時之御代官飯塚孫次郎様御支配其後享保十二年末四月に宮をさい錢にて建て御代官長谷川庄五郎様平岡彦兵衛様御支配之時也後々之年に至り萬一御公儀より御尋之節此札掛け申印に御座候以上享保十二年末の四月吉日妙見

大ぼさつ様但州出石八木町大工彌兵衛木村庄屋權右衛門年寄吉右衛門

一燈籠一對 寛政六甲寅九月太田善藏見

一鳥居 安永六丁酉一月吉日

一石段 下寛政七卯一月上文化元年子天

一石玉垣 大正十二年九月京都大木會

境内坪數 百七十七坪

氏子數 九十戸

祭日 元舊九月卯の日なりしが現今十月十七日とす

西野々村字宮山に在り村社、祭神正哉吾勝克速日天忍穗耳命。

天照太神の皇子にして太神命を愛して太子となし遂に豊葦原中國を治めしむ、尊初天降らんとするに際し當時大己貴尊出雲を中心として四隣に威を振へるが故に中途より還り狀を太神に具す、太神因りて高皇產靈神等に議し天穗日尊、天稚彦等を遣はして之を圖らしむ、意の如くならざりしを以て更に建御雷神、經津主神を遣はし漸く大己貴命及其部屬を征服することを得たり、是に於て忍穗耳尊更に降臨し給ふべかりしも皇子瓊々杵尊既に誕生ましませるが故に己れに代りて皇子を遣はさん事を太神に請ひ其許を得て天孫遂に日向に降臨し給へり。『日本書紀、古事記參照』

神體 衣冠束帶の立像手に玉を持つ。

神體厨子銘記天保五年未七月上旬願主村中奉彫刻佛師山口庄太郎、日域名諸工七條西宮方深祕職正流庄屋七郎兵衛外。

創立年不詳 寛延元年再建、明治六年十月村社格加列、明治二十七年十月上屋再建。
本殿奥朽記 寛延元年戊霜月吉日棟梁畠山村平井九左衛門藤原昌勝

一札 奉建立當社鎮守若宮大明神

御位皇増益、天長地久、我身亦自常護是人、村家氏子敬白、于時寛延戊辰霜月大吉祥

九一日御地頭小出織部様御代官伊藤政右衛門様御支配の時齊神道管領上吉日

殿門人祭主當若宮大明神神巫女朝日和泉庄屋太井七郎兵衛勝辰

一神鏡臺記 寛延元年戊辰霜月廿一日

奉進上松井長左衛門

一高麗狗二對一對の背に午の元祿十五庄屋七郎兵衛

境内社 稲荷神社

一燈籠一對 文政十一年九月

宮田預一石三斗ありしも賣却し唯宮田の字を存す

境内坪數 百八坪外に七畝四步明治三十八年編入
氏子數 二十八戸

祭日 十月八日

産靈神社

高龍寺村宇シヅ谷村社、祭神、造化三神

三神天之御中主神、高御產巢日神、神產巢日神

『古事記』天地初めて發するの時高天原に於て成る神の名天御中主神次に高御產

巢日神次に神產巢日神此三柱の神者皆獨り神成坐まして身を隠し玉へり。

『日本書紀』天地の中一物を生じ化して神となる國常立尊と號す次に國狹槌尊次に豐斟停尊凡べて三神獨化しぬ。

又曰高天原生まれます神の名は天御中主尊次に高皇產靈尊、次に神皇產靈尊。神體木立像一軀鎌倉時代の作ならん。

創立年代不詳 寳永八年再建、明治六年十月村社格加列。

一棟札〔梵字〕妙見大菩薩白山高龍寺氏子不退守護攸

〔梵字〕當社再興寶永八辛卯天王春吉祥辰

〔梵字〕轉禍爲福子孫繁榮二世安穩息災延壽

村中老若男女敬白出石八木町三左衛門宗鏡寺町新右衛門

出石醫王山光明院宥山

一社殿 間口八尺三寸奥行六尺九寸、丸柱前庇作

境内社 荒神社愛宕社稻荷社

一燈籠一對 寛政六寅九月一道書

一石段 文化元年十月吉日

坪數 二百五十一坪外ニ一反一畝七步三十八年五月編入

氏子數 二十八戸

祭日 元陰曆九月七日現今十一月二十三日

無格社

愛宕神社

祭神 軒遇突智神

『日本書紀』曰伊弉冉尊火の神軒遇突智を生む爲めに焦れて神去りましぬ其神去りますの間臥て土の神埴山姫及水の神岡象女之神を生む即軒遇突智埴山姫を娶りて稚産靈を生む此神頭上に蠶と桑とを生じ脣の中に五穀を生ず軒遇突智命後伊弉諾尊の爲に殺されぬ。

『古事記』伊邪那美命火の燒昆古神又の名は火之迦具土神又の名は火の夜藝速男神を生む此子を生み美蕃登炎れて病臥し後神去りましぬ。軒遇突智命は火を司る神なり。

一坂野村宇安田に在り神體は神佛混淆のまゝにて地藏の木像を安置す。

創立年代不詳 寛延三年三度再建元文四年又再建せり、創立は往昔の事なり。

(棟札による)

一札 上梁偈曰一字三成一化中民家諸此仰神風天長地久不堪議無限思光何有窮

虛舟叟如實洗手謹書

奉三建立愛宕堂一字天下泰平願主坂野中山兩村中今茲寬延三龍飛□□

一札 奉再建愛宕堂一字懇祈

天下和順五穀豐登村中安全火災不興

天德山衆等敬白願主當邑中

但陰坂野村愛宕宮原于開棟之年元文四己未夷則念四賞初請群山、獻奇之勝也一
字將敗修造記既三造矣、今歲文化戊辰曆山民戮合建之神宮及外堂其羣飛壯麗頗
陪舊制、神德服及吉日維丙子既卜遷宮三次乞予棟牘銘爲之祝曰、龍在元文請此尊
能除回祿福家門庶民感德葷神宇山野汗膺頤聖恩

天德山宗礎洗手謹書

一燈籠一對 寛政五年四月吉日

一石段 加永七年九月

一鳥居 明治十四年十月

境内坪數

祭日 十月八日

一太田村字愛宕山神體明治三十年頃乘馬之木像ありしも狂人の爲紛失現今は靈代を安置す。

創立年不詳

一燈籠一對

一古碑

一鳥居 元祿十六年六月吉祥日出石郡太田庄市場井上九郎左衛門尉。

一石段 上文化十四年下明治二十八年六月吉日。

坪數 二百八坪

祭日 陰曆六月二十三日祭禮として傘鉢を捧げ練り歩く起元南明堰を築造せし年
なりとの口碑あれど年代不詳

奥赤花村字梅ヶ坂創立不詳 享保十四年三月再建。

一札奉祭祠深香山愛宕大權現守護處已享保十四年三月吉祥日小西氏庄屋清左衛門

右當山深香山愛宕大權現者享保十四己酉三月吉祥日而當所奧赤花村小西氏庄屋清左衛門從取立再造立斯所仕子孫繁昌殊者當處安全五穀成就諸人快樂祈所右當山深香山愛宕大權現者當所梅林寺段田當寺持分當本寺丹後與謝郡加悅後野西光寺末寺現住(不明)敬白

一札 奉再建愛宕山御身體天保五年十一月吉日遷宮導師別當西光寺現住胎藏院權大僧都海山法印

一札 奉造作愛宕大權現堂一字安永五丙天八月吉辰

神體 愛宕神乘馬木像裏銘再興佛師當國養父郡畠邑日下部善太夫宿小西六兵衛宅にてす

須賀神社 奥藤村字山内に在り。

祭神は保食神 相殿に稚皇靈神、蒼稻魂神。

保食神は蓋し豐受神、又は豐宇氣毘賣神也

『日本書紀』曰天照太神在於天上曰聞葦原中國有保食神宜爾月夜見就候之月夜見尊受勅而降已到于保食神許保食神丸廻首嚮國則自口出飯又嚮海則鰐廣鰐狹亦自口出又嚮山則毛麤毛柔亦自口出夫品物悉備貯之百机而饗之是時月夜見尊忿然作色

曰、穢矣、鄙矣、寧可以口吐之物敢養我乎、迺拔劍擊殺、然後復命具言其事、時天照太神怒甚之、曰汝是惡神、不須相見、乃與月夜見尊、一日一夜隔離而往、是後天照太神復遣天熊人、往看之、是時保食神實已死矣、唯有其神之頂化爲牛馬、顱上生粟、眉上生蠶、眼中生稗、腹中生稻、陰生麥及大豆小豆、天熊人恐取持去而奉進之、于時天照太神喜之曰、是物則顯蒼生可食而活之也、乃以粟稗麥豆爲陸田種子、以稻爲水田種子、又因定天邑君、卽以其稻種、始殖于天狹田及長田、其秋垂穗八握、莫了然甚快也、又口裏含蠶、使得抽絲、自此始有養蠶之道焉、保食神此云宇氣母知能加微、顯見蒼生此字都志枳阿烏比等久佐。

『古事記』伊邪那岐、伊邪那美、生和久產巢日神、此神之子謂豐宇氣毘賣神、(以下同書紀)但本

書作大氣津比賣神

稚皇靈神社は愛宕神社の條に載す

本社神社啓蒙は伊勢外宮の元宮なり、現今伊勢外宮にヒヂ森あり、尙其位置をイサナゴ山の南一里に在りと當社を指定す。

附近に宮の谷、比遲ヶ谷、藤木、おいけ等の字を存す。

神體 豊宇賀命の古木像なり。

明治維新前神佛混淆改の際阿彌陀堂と合祠せし故棟札等多く阿彌陀堂とせり。

祭神 保食命にして前記須賀神社に同じ

稻荷神社

坂野村字稻荷、御靈羽倉攝津守古文書を藏す。

證、一、小祀式金壹兩貳步右御鶴料目出度合社納候以上已八月十三日稻荷本宮御殿

預羽倉攝津守代神役人即但州出石郡坂野村中

外に羽倉攝津守古文書あれど虫害の爲読み難し

創立年不詳

一木村字小城谷、札奉建立稻荷大明神元祿十三年三月吉日講中

一畠山村字佛清

(伏見稻荷祠官松本筑後守文書一通)

正一位稻荷大明神安鎮之事

右雖爲本宮之奥祕依各別之願望略式修封之嚴璽令授與焉祭祀慎之莫怠也

城州紀伊郡

本宮祠官

寛政十一年七月豐月正四位下行筑後守

泰宿禰爲房印

但洲出石郡太田莊畠山村

鎮守

『永井和平文書』

吉野神社 東里村字大谷の上

祭神 廣國押武金日天皇。

第二十七代安閑天皇、勾大兄廣國押武金日天皇と稱す繼體天皇第一の皇子御母は
日下姫命、繼體天皇二十五年卽位都を大和高市郡金橋宮に遷し在位二年にして崩す
壽七十河内古市郡高屋丘陵に葬る寛大にして頗る人君の量あり。『大日本史』
創立年不詳 寶曆十年八月再建。

神體 衣冠束帶白馬に跨り右手に鉢左手に玉を持す
石製高麗狗 破損大小各一個あり

一札 奉建立仕寶曆十年辰八月十四日

一札 奉建立仕藏王權現宮地、寶曆十年辰八月十五日

一札 奉造榮御神殿藏王權現守護攸寶曆十庚辰九月吉祥日國家安全萬民豐饒

一札 藏王大權現守護寶曆十庚辰歲九月吉祥日

一札 奉修藏王權現柴燈護摩供當社安全攸

安永三甲子年七月吉祥日但州出石城修驗持德院持寶院寶勝院福壽院大寶院利性院大龍院繁昌院智燈院本願大善院法中

坪數 七十六坪

當社は東里ヶ岳之九合目に在り、土地高燥北方の眺望に富み、且往昔櫻樂山栗丹寺跡の直上にあり。

青倉神社 坂津村

祭神 稚產靈尊愛宕神社の條參照

創立年不詳 明治三十二年舊三月二十九日不動明王と合祠再建。

罔象女神社 日向村

藥師堂祭神 罔象女命

記紀曰伊邪奈美命迦具土神を生み炎れて病臥す屎になるの神波爾夜須毘古同毘賣次に屎に成る神彌都波能賣神、水を司る神なり。

神體 木立像一軀外に伊弉冊命裸體木像一軀

一札 奉上棟大之尊神家門長久榮昌罔象女守護所天保十二丑年九月吉日小出織部正様御領御代官河合牧太郎家則殿支配

本神體並に棟札共に薬師堂に在り、裸體木像淫祠なるも佛堂として、神社改の際調査せざりしものなり。

大將軍神社 奥藤村字容谷に在り。現今岩谷と稱す

祭神 不明なりと雖も、大將軍神は鎮守大將軍神の事なるべし、鎮守神は其土地第邸宅氏等を鎮安守護する神を云ふ。一國の鎮守、王城の鎮守、後院の鎮守、城内の鎮守、神社寺院第宅の鎮守、氏の鎮守等あり。

神體 衣冠束帶坐像一軀

一札 大將軍正遷宮、明治二十年五月十五日奉仕祠掌黒田廣照

創立年不詳

當社は目並に乳之神とて崇拜者多く、祈願者は竹の節間に酒を容れて供ふと。現に竹筒無數に有り。

阿蘇神社 中藤村字阿蘇

祭神 阿蘇津日凝神

『日本書紀』景行天皇十八年六月の條に、丙子阿蘇國に到る其國郊原曠遠人居を見ず、天皇曰是國人有る哉と時に二神あり曰阿蘇都彥、阿蘇津媛忽化して人となる、曰く吾二人あり何ぞ人無き哉と故に其國を號して阿蘇と云ふ。

神體 封箱

創立年不詳 文政九年上屋再建、大正十一年上屋再建拜殿新築。

坪數 四百四十一坪

本社は往古九州より勧請せしとの口碑あり。

若宮神社 奥赤花村に在り

祭神不明 俗に梅ヶ追爺を祀ると云ふ

札奉造立若宮大明神一字結願成熟加護所

寶曆十年二月吉祥日

高來神社 中藤字高來に在り

祭神 武内宿禰

筑後三井郡國幣中社高良神社あり、祭神高良玉垂命とも又玉垂命左にあり、武内宿禰共に祀るとも云へり、玉垂命武内宿禰共に神功皇后征韓に功あり。

村社八幡神社奥宮神社當社共に祭神に關係を有す。